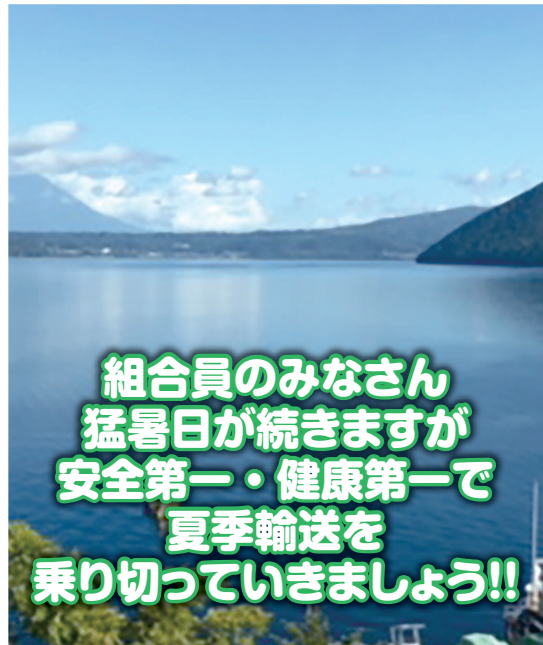


JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
東京都渋谷区代々木2丁目2番6号
JR新宿ビル13F 〒151-8512
電話 03-3375-5740(代)
2018年8月1日 発行人 山口浩治 編集人 湯ノ目亜矢子
第682号 月2回(1日、15日)発行/一部20円
(組合員の購読料は、組合費に含む)



JR東労組ホームページは
←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>



2018 秋のたたかい スタート!!

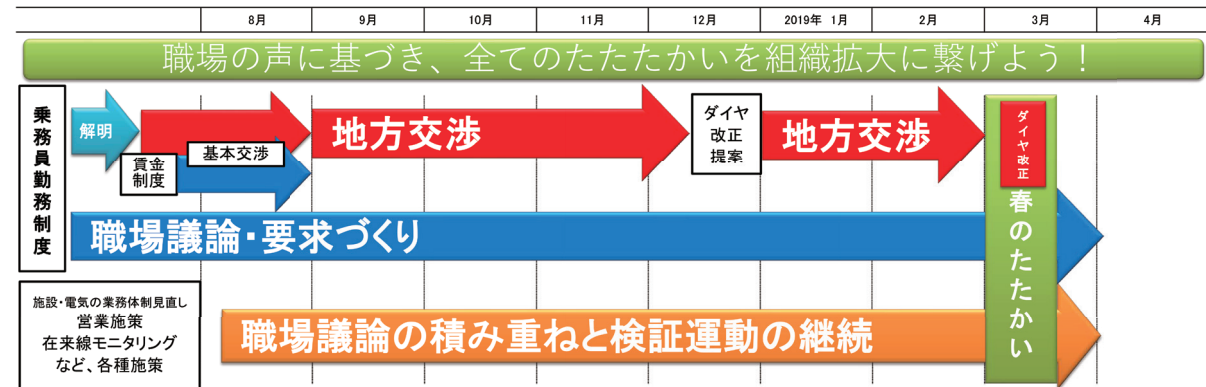
スローガン

18春闘「敗北」の総括に踏まえ、職場の声に基づく新生JR東労組運動を創り出すことを基礎に信頼を回復し、組織強化・拡大のうねりを大きく創り出そう。

これまで中央本部は、第36回定期大会以降も厳しい相互討論で18春闘を振り返ってきた。その議論を基礎に「見解」を提出し、18春闘の「大敗北」を受け止め、新生JR東労組運動を創り出していくことを広く訴えました。

秋のたたかいでは、新生JR東労組として、組織拡大をしていくための取り組みに力を入れていきます。各種業務問題の解決に向けての議論・検証など、JR東労組を実感できる取り組みをスケジュール感を持って推し進めていきます。乗務員勤務制度の見直しなどの施策によって、組合員は職場の将来像について不安を持っています。組合員の声を大事にしながら、一つひとつの施策に真剣に向き合い、組合員の付託に応えるべく交渉に臨んでいきます。

職場の問題を解決するのは、労働組合の使命です。秋のたたかいを通じて、少しでも労働組合の必要性を実感してもらえよう。全組合員で奮闘していきましょう!!



みなさんに訴えます! 本部見解発出!!

18春闘の「大敗北」を受け止め 新生JR東労組運動を創り出そう

JR東労組中央本部は、現在の組織実態と労使関係を直視し、その指導責任を厳しい相互討論で振り返り18春闘総括議論を行いました。

格差ペアに「反対」することや格差を「是正」するといった方針は間違っていないものの、18春闘における格差ペア「根絶」方針は、到底貫徹できない要求であり、労働組合が掲げる要求ではなかったことを振り返りました。その過程においては、おかしいと思いつつも先頭に立つ指導者に追従してしまった結果、職場の組合員の声を受け止めず、方針貫徹に向けた議論を職場に押しつけていたことも明確にできてきました。我々が打ち出した18春闘の方針や戦術で現在の組織実態と労使共同宣言の失効が生み出された反省し、18春闘は「大敗北」だと総括しました。

また、中央本部が組合員にどのように見られているのかについて、職場の求めている運動から乖離し「自分たちのやりたいことばかりやっている」と意見が出されました。本部が出した方針をいかに貫徹させるのかという態度が官僚的役員を生み出してしまったと、組合員の声を受け止め、これまでの運動を反省していくことを議論しました。

2020年のオリンピック・パラリンピックが控える中、JR東日本でストを構えることは、政府や会社、JR東労組を弱体化させる決意をさせ、ご利用いただくお客さまやそこで働く仲間にとっても大変な不安を与えてしまったと反省をしています。今春闘のように組合員の声に基づかない格差ペア「根絶」などといった、貫徹できない要求のためのストライキは今後構えるつもりはないことを確認してきました。

また、18春闘の過程において、一部指導部が嘘や偽りで役員・組合員を組織化していた事実が次々と発覚しています。中央本部は、そのような者たちは毅然とした態度で立ち向かい、12地本の真の団結を最前線で切り拓いていきます。

多くの組合員に不安を抱かせてしまった労使関係について、中央本部は労使の信頼関係を自ら壊してしまったという立場に立ちました。労働組合がストライキ権の確立を背景に団体交渉することは一般的にも行

われていることです。しかし、JR東労組には、平和条項第70条と労使共同宣言があり、団体交渉が終了していない時点でストライキを予告することでそれを踏みにじってしまいました。その反省に立った上で、労使関係の正常化に向け奮闘していきます。

現在多くの施策が出されています。会社施策に対しては組合員の雇用と利益を守るために「安全・健康・ゆとり・働きがい」を対置し、職場現実や組合員要求を把握して、時間軸を持って真摯に施策と向き合っていくことを確認しました。

しかし、労使関係は力関係です。多くの組合員がJR東労組に加入し、組織が強化されてこそ要求が貫徹されていきます。一人でも多くの再加入が要求を貫徹する力になるのです。団体交渉が出来ない社友会や組合がない会社では働く者の利益が守られないのは言うまでもありません。安全で安心して働ける職場を創るために、全組合員で組織拡大へ向けた実践を共に創り出していきます。

18春闘を機に多くの組合員から平和運動や政治活動に対し意見をいただきました。これまでのトップダウンの運動と決別し、全系統の組合員の声に基づき、職場環境改善はもとより、組合員の雇用と利益を守る運動を第一に押し進め、必要な取り組みはしっかり納得をもらってから進めていく新生JR東労組運動を創り出すことを目指していきます。

JR東労組に残ってよかったと実感でき、仲間がJR東労組に戻りたいと思える、組合員が主役の新生JR東労組運動を全組合員で創り出していきましょう。2018年7月26日 東日本旅客鉄道労働組合 中央執行委員会

2018年7月26日
東日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員会

平和条項第70条と労使共同宣言を逸脱した経緯

- 1/31 一律定額のペアを求めた申13号で「定額以外の実施方法は将来にわたって行わないこと」で対立
- 2/9 定期中央委員会を開催しあらゆる闘争戦術の行使を決定
- 2/16 闘争1号『所定昇給額』を算出基礎にしないベースアップの実施等を求める緊急申し入れ』を提出
- 2/19 非協力闘争として「争議行為予告通知」を厚生労働大臣、中央労働委員会と会社に通告
- 2/19 闘争指令第3号「18春闘における「非協力闘争」に関する東京地方本部への闘争指令について」発出
- 2/23 闘争1号第1回交渉開催



単身赴任
となり、最
近は子供と
過ごす時間
を今まで以
上に大切に
している。子供は、無邪気で純粋であるところを、一緒にいると強く感じる▼一見、何も考えていないように見えるが、常に自分が一番やりたいことのために何をすべきかを考え行動している。その大半は、遊ぶためである。遊ぶために宿題を終わらせる。部屋を掃除する。食器を洗う。親の手伝いをする。目的貫徹のために真剣に考え実践していると感心させられる▼子供は約束したことは絶対に忘れない。キャッチボールの約束をし、時間が過ぎて夕方ぐらいになってしまった時も「いつになったらキャッチボールやるの」と言われたことがある▼大人になるにつれてそういった純粋な心は忘れ去られ、何かにつけて言い訳をしたり、嘘や誤魔化しでその場を切り抜け、自分自身の欠点から目を背けなくなる。とがある。私は今の自分を振り返り、見つめ直すことの大切さを子供から学んだ▼「子は親の背中を見て育つ」という言葉がある。子には恥じない親でありたいと思う。

(K・N)